

## 割田駿光君 世界大会へ

割田駿光君（東京外国語大学4年生）が、11月にドイツのベルリンで開催される第8回チアリーディング世界選手権大会に出場する日本代表チーム（総勢18名）の一員として参加することになりました。

割田君は、東京外国語大学のチアリーディング部RAMSに所属しています。このチームは、全国でも珍しい男女混合チーム（計25名）で、ガールズの華やかさとメンズの力強さが結合したパワフルな演技で観客を魅了しています。

大学1年生の時から始めて、まだ4年目ですが、その実力が認められ、この度日本代表選手として世界大会という檜舞台で戦うことになりました。

割田君には日頃の実力を十分に発揮し、活躍されま



8/31

## 五畷ますをさん 満百歳慶祝訪問

判形の五畷ますをさんが8月28日に満百歳を迎えられました。31日に後藤村長がご自宅へ慶祝訪問をし、特別敬老祝金、記念品を贈り、ご家族と共に長寿のお祝いをしました。

五畷さんは、はつきりとした口調でお話をされ、後藤村長に「村長さんが来てくれてうれしいです」と涙ぐんでいました。

また、日頃はデイサービスを利用したり、ご家族との楽しい時間を過ごしておられるようです。

帰る際もご家族の手を借りることなく、ご自身で玄関先まで歩かれ見送って頂きました。とても百歳とは思えない元気な様子でした。

これからもお元気で過ごされますよう願っています。



9/10

## 受賞おめでとうございます 高山村食生活改善推進協議会 厚生労働大臣賞表彰

9月10日（木）幕張メッセ国際会議場において、平成27年度全国食生活改善大会および第46回全国食生活改善推進員協議会大会が開催されました。

この大会は、「私たちの健康は私たちの手で」の合い言葉のもとに、国民すべてが健康で心豊かな生活を築くよう自発的な活動をしている食生活改善推進員の代表が、国民の健康づくりの推進に役立つための大会となっています。

今回は、高山村食生活改善推進協議会が、その功績が認められ厚生労働大臣賞を受賞しました。

今後も「食」を通じた健康づくりの担い手として活躍されますことをご祈念申し上げます。



# 少年の主張吾妻地区大会

8月18日、ツインプラザにおいて、平成27年度第37回少年の主張吾妻地区大会が開催されました。郡内各中学校の代表が集まり、それぞれが自分の思いを主張しました。

本村からは3年生の有馬凜さんが『人とのちがい』と題して、素晴らしい発表をしてくれました。その作品をここに紹介します。

(少年の主張吾妻地区大会優秀作品)

## 人とのちがい 有馬 凜



「どうして自分だけが不幸なのだろう。こんなの不公平だ。」みなさんは、普段の生活の中でこのように感じたことはありませんか。自分自身のこと、家族や友達、身の回りの現状。このようなものは、努力ではなかなか変えることができません。そして、不幸や不公平のそばにいつもついてくる言葉があります。それは「ちがい」です。人はいつも、自分と相手を比べて、自分の方が勝っている、劣っている、と「ちがい」に優劣を付けてたがります。その「ちがい」にも、たくさんの

種類があります。たとえば、男女という性別の違い。黒人と白人という肌の色の違い。宗教の違い。そうした中、こんな違いもあります。普通の人と、障害者。私の弟は、自閉症です。自閉症とは、先天性の脳機能の障害による発達障害です。小さい頃は、弟が周りとは少し違う、という意識はあまりありませんでした。幼稚園では、弟を教室に送ってから自分の教室へ行き、帰りは弟を迎えに行つてから一緒にバスに乗るといったのが私の日常でした。しかし、私も成長していくにつれて、周りの人と弟が違うということを感じるようになりました。たとえば、家族で買い物に行つたとき、弟が大きな声を出して、ジャンプしながら騒いだことがあります。騒ぐ弟はもちろん、一緒にいる私たちに対する視線も感じます。すると私は、こんなことを考えてしまいます。もしかしたら、私たちは笑

われているのかもしれない、と。そんなとき、私はいつも周りの人の目ばかり気になってしまい、弟の手を握っておとなしくさせていないと気が済まなくなってしまう。自分のほしい商品が売っているところまで、一人で行くのが怖いときだつてありました。もし、自分が笑われていたら、弟が笑われていたら・・・そう考えると、怖くてたまりませんでした。みなさんには分かりにくいかもしれませんが、たぶんあれを「偏見の目」と言うのだと思います。直接言葉にされなくても、確かに伝わってきました。「あの子は普通ではない、気持ち悪い。」という思いが。ここでみなさんに質問します。「普通」とは一体何ですか。どんな人が普通で、その基準を作っているのはだれですか。それに答えられる人なんていないはず。それなのに、「少し発達が遅い、少し周りとは違う」というだけで、「障害」というレッテルを貼られ、偏見の目で見られるなんて、私はおかしいと思います。何も悪いことをしていないのに、いるだけで気持ち悪がられて、他人と少し違うというだけで、心ない言葉を使われてしまう。私の弟は、自分の気持ちを相手に伝えるのは苦手だけど、きつといつも苦しんでいると思

います。私の住んでいる村は小さな村で、知り合いが多いので、これまで私も弟も、学校生活では自閉症が理由で嫌な思いをしたことはほとんどありません。しかし、世の中はきつとそんなに甘くはありません。差別や偏見はつきまとうし、人の冷たい目もなかなか消えてはくれないでしょう。差別や偏見のない世の中を作ろう、と口にするのは簡単です。大切なのは行動すること。そうしなくては何も変わりません。それなのに、偏見にとらわれて悪いところばかり見て、向き合おうとしない人がいます。人と違うというのは、いけないことなのですか。世の中には、自分と同じ人はいません。人と違って当たり前です。私の弟は感情を言葉にするのは苦手だけど、他に得意なこととはたくさんあります。優しく、とてもきれいな心を持っています。私はそんな弟が大好きです。私の村の人たちは、弟が周りの子と少し違うことを知っていても、周りの子と同じように笑顔で声をかけてくれます。それだけで充分なのです。「ちがい」に優劣を付けるのではなく、受け入れ合うことで、私たちが感じた冷たく刺さるような視線を、温かいまなざしに変えていきませんか。

8/10~20  
地域づくり  
インターン  
2015

今年も3名の大学生が村にやって来ました。8月10日〜8月20日までの11日間で、農作物体験、いぶきまんじゅう作り、こんにやく作り、ふるさと祭りの準備や当日の手伝い、また星の観察など、幅広い活動を体験してもらいました。

「そば打ちが楽しかった。次来た時はもっと上手くなりたい!」「菓細工でもっといろいろな作品を作ってみたい」「村民運動会に参加してみたい、農家さんの家に泊まってみたい」とそれぞれの感想を述べてくれました。また、最終日の活動報告会では「村への提案」を発表してくれました。



8/23  
村指定文化財  
「役原獅子舞い」

役原地区が今年も華やかな提灯や飾りで彩られる「役原獅子舞い」。今年はどうな子どもたちが踊るのかと獅子の面の下からのぞく顔を見てみると、家庭を持つ大人から現役学生まで幅広い顔が集まっています。子どもが少なくなっていく中、奉納のために集い、練習を重ね、今年も厳かな踊りを披露してくれることに思わず感謝してしまいます。舞いの後には獅子たちがちりちり観客を追いかけ、面で観客の頭を小突いていく様子も見られました。泣いてしまうお子さんもいましたが、役原の人々にとつては、こうしてもらうことが何よりの無病息災のおまじないなのかもしれません。



9/2  
高山中学校体育大会

9月2日に高山中学校の校内体育大会が開催されました。悪天候により予定されていた日程から順延が続きましたが、やつと生徒たちの願いが叶って開催することができ、喜びと合わせて気合い十分でした。

各クラスで団結して作成した学級旗はどれもクラスの思いが伝わってくる素晴らしい作品になっていました。また、クラス対抗になっているので、応援にも力が入り競技中の選手たちにも頑張る力になっていたようです。

父兄の方々も応援に来ていて、日頃の練習の成果、また子どもたちの成長した姿を見て熱が入った声援をおくっていました。





9/5 高山小学校  
大運動会

9月5日に、高山小学校大運動会が開催されました。連日雨模様でしたが、当日は朝から運動会日和で楽しみにしていた児童たちのワクワクが伝わってきました。

初めての小学校運動会となる1年生。みんな真剣に力を振り絞って頑張っている姿がとても印象的でした。また応援にきている家族のみなさんでいっぱいのお客様も大変盛り上がっていました。

9/2 楽しかった  
夏祭り



◀ みんなの思いをこめた神輿を、みんなで担ぎました



▶ そうめん流しをして、おいしく食べました

9月2日、幼稚園で夏祭りを行いました。

みんな仲よく楽しく遊ぶ、という願いを込めて作った神輿をみんなで担ぎ、子どもたちは、あそびコーナー・体験コーナー・ボールゲームコーナー・おやつコーナーを巡り、様々な体験を行うことができました。

保護者の方々に協力をいただき、子どもにとって楽しい一時を過ごすことができました。